

【事業実績】

1. 浦戸・御畳瀬地区の地域文化の調査

①浦戸・御畳瀬地域文化継承検討会議

全体の顔合わせ・今後のスケジュールの共有を行い、本事業を行う目的などを再確認した。

②地域住民への聞き取り調査

浦戸・御畳瀬地域にて漁業従事者・地元住民にインタビュー調査を実施。資料不足・古写真の散逸が著しいことを再確認するとともに、地域の中心となっていた方の死亡が相次いでいると聞く。本事業の緊急性を痛感。

③出張調査(地域比較・被災地における文化継承)(1)

2023年9月20日～22日実施。臨海部に位置する茨城県大洗アクアワールドを訪問し、東日本大震災時の対応とともに、被災時における展示物(生体含む)の保護について意見交換を行う。水族館という特性上、展示生体の命の保護に加え脱走・脱柵対策を講じる必要があり、地域住民とのコミュニケーション不足は風評被害やデマの根源となる。また博物館等施設における来館者保護・避難誘導の重要性について確認した。また近隣の那珂湊港を訪問し、後継者不足による漁業の弱体化などについて報告を受ける。



⑤調査報告会

②～④の内容を関係者に共有するとともに、地域を比較し浦戸・御畳瀬地域の特徴・課題を明確にした。当地域の特徴は漁業を中心に栄えた地域であること・居住歴が長い住人が多くコミュニティが成長している反面、排他的な側面がありまたコミュニティ全体が高齢化・弱体化している・地域ごとの愛が強いことが挙げられた。調査の内容から、資料収集を含めた追加調査も必要であると考えられ、今後のスケジュールに追加。

2. 浦戸・御畳瀬地域文化継承の紙芝居作成

①地域文化紙芝居題材選定会議の実施

②と同時開催。講座の内容をもとに、紙芝居の題材としてキーワードを選定した。実際の資料(新聞・古写真)に着想を得たフィクションとしてストーリーを構成する。



②紙芝居作成講座の実施

①と同時開催。講師を招聘し、実際の新聞・写真・パンフレットをもとに、かつての浦戸・御畳瀬の歴史を体系的に振り返った。高知県立大学・高知大学の学生に調査補助を依頼し、博学連携の取り組みとして位置付けた。

〈参加者の声〉

○県外出身で高知に住んで日も浅いが、高知の歴史を知るきっかけになった。普段見る景色が変わりそう。

○釣りが趣味で浦戸湾で釣りをするが釣り仲間から、「孕のジャン」の話を聞いたことがある。自分は経験したことはないが、深夜の浦戸湾は独特の雰囲気がある。昔の人たちも不安を感じていたことを知り興味が湧いた。

○大学生が話を真剣に聞いてくれて驚いた。自分も年を取り、次世代に浦戸の歴史を知ってもらいたいと思っていた。この先も大学生らと何か出来たらうれしい(講師)

③中間報告会

紙芝居のストーリーが大まかに完成し、関係者によるレビュー会を実施。言葉遣いや読むペース・間の取り方などについて意見を交換した。オンラインにて。

3. 浦戸・御畳瀬地域文化の対外発信

①地域文化交流会の実施・水族館での紙芝居上演

完成した紙芝居を水族館にて披露。2作品を1回とし3回(6作品分)

を実施。延べ150人を超えるお客様に聴講いただいた。

披露は地元の大学生に依頼し、地域との交流を図った。

インタビューに協力いただいた方を招待し、完成した作品を

見ていただいた。



〈参加者の声〉

○自分たちで作った紙芝居をお客様の前で披露し緊張したが、聞いていただけてうれしかった。内容やストーリーのもとになった浦戸の歴史について質問もされたが、答えられた。自分でも調べ、積極的に浦戸にかかわりたいと思った。

○初めて桂浜水族館を訪れたが、この地域の歴史を知ることができてよかった。このまま帰る予定だったが浦戸地区に少し寄ってみようと思う。

○地元出身の自分にとっては小さなころから知っていた内容もあったが、大学生が紙芝居にまとめてくれて新鮮だった。観光客の反応も新鮮で。地元のことを少し誇らしく思った。

○桂浜水族館が博物館だと初めて知った。定期的にこういった情報も発信してほしい。

②紙芝居の他言語翻訳

紙芝居のストーリーに対し、英語翻訳を実施。留学経験のある学生に協力を仰ぎ今後の展示・上演の際に国籍を超えて発信できるようにした。

③特別展の実施

桂浜水族館にて紙芝居の原画を用いた企画展を実施。紙芝居の紹介に加え、背景の歴史的事実をキャプションとして追加した。水族館という場所で行うことで、学習へのハードルが下がり多くの世代に対し、生涯学習の場を提供できた、

④SNS 発信・広報・アーカイブ化

桂浜水族館の公式SNSにて活動の振り返りを投稿した。

⑤報告書の作成

以上